6月定例会　一般質問で登壇

放課後児童クラブで昼食提供を！
おたふくかぜワクチンに助成を！

福岡市議会議員（西区）

議会通信 vol.19（2023年 夏号）

田中たかし（たなか　たかし）

写真：能古島 のこのしまアイランドパーク
能古島の自然公園。6月はマリーゴールド、これからは向日葵が見ごろを迎えます。美しい花と青い海に囲まれた最高の景色でおじさんもテンション上がります。

2期目本格的スタートとなる6月定例会が6月16日～27日まで開会され、田中たかしは一般質問で登壇しました。

今回は選挙期間中にいただいた声をもとに質問を作成しました。

放課後児童クラブの長期休業中（夏休みや冬休み）での昼食提供とおたふくかぜワクチンへの接種料の助成を求めてそれぞれ質問し、行政の姿勢に切り込みました。

質問の詳細など、市政に関する雑感をブログに掲載！

ホームページからリンクしています。（田中たかし 検索） https://tanaka-t.jp/category/blog/

Topics

朝のお弁当作りが大変！
放課後児童クラブで昼食提供を

働き方や家族の形態が多様化する今の時代、保護者の環境を整えるのも行政の大きな役割。行政の都合や目線ではなく、保護者と子どもに寄り添った放課後児童クラブの運営を。

現在、夏休みなどに放課後児童クラブに行く際は弁当持参が原則です。しかし、朝仕事に行く前にお弁当を作るのは保護者にとって大きな負担。これからの時期は食中毒も心配です。奈良市や八王子市では民間事業者や給食センターと連携して昼食提供を実施しています。**政令市でも札幌市や広島市では実施する方向で具体的に動いています。**また、本質問と同時期に**子ども家庭庁が**全国の学童施設に対して昼食提供に関する調査を実施し、**保護者のニーズが高かったことから、地域の実情に応じて昼食提供を検討してほしいと自治体に呼びかけている**ことが報道により明らかになりました。

保護者の負担軽減のため、放課後児童クラブでの昼食提供が全国的に広がりつつある今、本市でも実施してもらえるよう質問しました。

教育長への質問と答弁（抜粋）

質問 **放課後児童クラブでの長期休業中の昼食提供について、福岡市の見解をお聞かせください。**

答弁
- 学校給食が法令に基づき学校教育活動の一環として実施されている一方で、放課後児童健全育成事業における昼食の提供については関連法令の規定はなく、政令市において本格実施しているところはない。
- 提供の仕組みや環境を整えるためには、衛生面、アレルギー対応などの安全面、それらを担保するための人員体制や職務の内容など様々な課題がある。

▶ 質問を終えて

残念ながら教育委員会は消極的と言わざるを得ませんでした。実施にあたって様々課題を挙げ、それを理由に実施できないとしていましたが、何よりも、その**課題解決のために前向きに取り組む姿勢に欠けています。**

保護者にどの程度のニーズがあるのか調査も行っておらず、実態把握をしようともしません。**2006年にも昼食提供を求める質問がありましたが、その頃から具体的に話が進んだ形跡もありません。**

保護者や子どもに寄り添った運営を心がけるよう、教育長だけではなく市長にも強く要望しました。

Topics

難聴の子を出さない！
おたふくかぜワクチンに助成を

過去にも福岡市議会で議論されたテーマですが、依然として「国の動向を注視する」としか言わない福岡市。他都市では助成に動く中、あまりにも受け身すぎる福岡市の姿勢を厳しく質しました。

おたふくかぜは、合併症でムンプス難聴を引き起こす可能性のある決して軽視できない病です。予防にはワクチンが効果的ですが、国が任意接種としているため費用は全額自己負担。概ね6,000円～8,000円と決して安くはない金額です。医師からヒアリングを行うとともに、データや論文などを参考に質問を作成し、医学的根拠を示しながら当局と議論しました。

小学生以下の子どもが**難聴になれば言語習得に多大な影響が生じる上に、それまでに覚えた言葉も失っていってしまいます。**

接種料が高いからと諦めたせいで子どもに難聴というハンディキャップを一生背負わせたとしたら、**親も一生後悔しながら生きていく**ことになります。そんな人たちを出したくないという強い思いで質問しました。

保健医療局長への質問と答弁（抜粋）

質問 **おたふくかぜワクチンについて本市はどのような認識なのか、安全性も含めて市民に推奨するのかしないのか、ご所見をお伺いします。**

答弁
- おたふくかぜワクチンについては、国の審議会において、医師会や学術団体等による調査研究も含め、議論が行われているが、現在あるデータでは不十分であり、さらなる調査研究が必要とされている状況であるため、定期接種化には至っていない。
- 本市としては、国の審議会の結論が出されるまでの間は任意接種として個人の希望と医師との相談により接種の判断を行っていただきたいと考えている。

おたふくかぜワクチンの副反応※

症状	自然感染	ワクチンの副反応
無菌性髄膜炎	1～10%	0.01～0.1%
脳　炎	0.02～0.3%	0.0004%
難　聴	0.01～0.5%	不明
耳下腺の腫れ	60～70%	3%
顎下腺の腫れ	10%	0.5%
すい炎	4%	ほとんどなし
精巣炎	20～40%	ほとんどなし
卵巣炎	5%	ほとんどなし

ワクチンによる無菌性髄膜炎などの副反応は自然感染と比較するとはるかに低率であることを学術団体は認めています。

※ 庵原俊昭 「任意接種対象 おたふくかぜ ワクチン」臨床と微生物 32：481-484（2005）

▶ 質問を終えて

国立感染症研究所や医師会、学術団体も**安全性を認め、接種を推奨していますが**本市は国が定期接種化の議論中であることを理由に**助成を考えていないということが明確となりました。**

すでに公費助成をしている他政令市に助成導入のきっかけも確認しましたが、**神戸市は「公衆衛生上有益なワクチンであり、子育て世帯の経済的負担軽減のため」**とし、名古屋市は「市長が予防医療の推進に力を入れているから」との回答をしています。

世界の中で日本は予防接種については最後進国といわれており、先進国でおたふくかぜワクチンを定期接種で行っていないのは日本だけです。そんな国の決断を待っていては福岡市は後れを取ります。助成制度を開始している自治体が増えていく中、**「国の議論を注視する」という本市の姿勢はあまりにも受け身すぎると指摘し、**市長、医師でもある副市長に**積極果敢な決断を強く求めました。**

Opinion 田中たかしの主張

子育て支援に一発逆転はない！
地道な施策の積み重ねを！

少子化が加速的に進む今、本腰を入れて子育て支援策を講じなければいけません。働き方改革や育休のあり方、教育費の無償化など社会的構造的な課題にメスを入れなければいけませんが、自治体としても不安なく子育てができる環境を地道に整備していく必要があります。本市も今年度は子育て支援策を拡充し、関連予算の規模は過去最大となりましたが、まだまだきめ細かい施策の展開が必要です。

今回の質問では市民の皆さんの要望もあり、他都市ではすでに実績が上がっているにもかかわらず、本市では何年も進展が見られない施策に焦点を当てて質問をしました。当局の積極的な姿勢は見られませんでしたが、引き続き粘り強く働きかけていきます。

田中たかしのプロフィール

福大大濠高校卒業
拓殖大学卒業
法政大学大学院修了
国会議員政策秘書　等
福岡市議会議員（2期目）
福岡市民クラブ政調会長
総務財政委員会委員
議会運営委員会委員　他

田中たかし市政相談所

住所　〒819-0378
福岡市西区徳永北14-27 1F
Tel・Fax　092-407-6236
E-mail　tanakatakashi.office@gmail.com

Facebook　ホームページ